

■■■ 施設見学会 ■■■

宮古島市クリーンセンター

企画運営委員会副委員長 三野 淳一
(株) 神鋼環境ソリューション

1. はじめに

沖縄県、先島諸島に属する宮古島は、着陸時、機内から見るとよくわかるのですが、山らしい山がなく、平らな島です。山がないから川がなく、赤土の流出で海が汚れる心配がないため、これまで、美しい島の環境を維持して来られたとのこと。

この、美ら海・美ら島を守る施設として、新しく出来たばかりの宮古島市クリーンセンターを、(株)川崎技研のご協力により、平成28年11月、平成28年度の企画運営委員会の施設見学会として見学致しました。

2. 視察概要

- 1) 日程 平成28年11月21日(月)
- 2) 参加者 17名
- 3) 視察先 宮古島市クリーンセンター

3. 施設概要

- 1) 事業主体 宮古島市



宮古島市クリーンセンター

- 2) 所在地 沖縄県宮古島市平良字西仲宗根地内
- 3) 規模 63t/日(31.5t/16h×2炉)
- 4) 施工会社 (株)川崎技研
- 5) 工期 平成25年3月～平成28年3月
- 6) 炉形式 准連続式焼却炉(ストーカ方式)
- 7) 処理対象物 一般廃棄物可燃ごみ+下水道処理し渣+災害廃棄物(不適物除く)
- 8) 敷地面積 総面積:26,300m²
- 9) 建築面積 クリーンセンター:2,520m²
管理棟:583m²

4. 施設運営状況

宮古島市クリーンセンターは、平成17年10月いわゆる平成の大合併により、平良市と宮古郡城辺町、下地町、上野村および、伊良部島、下地島を町域とする伊良部町の5市町村が新設合併し誕生した、「宮古島市」のごみを一手に引き受ける施設として、平成28年3月に竣工しました。

これまで、3箇所処理していたごみを島内1箇所処理するため、安全、安定性を確保したストーカ方式のシステムが採用され、運営が行われています。

市全体の人口は54,000人で、実際のごみ発生量は50t/日となり、63t/日規模の本施設で十分な処理が行われ、焼却灰は、島内2箇所の最終処分場で最終処分されます。

施設の運転は、一般競争入札により、宮古島市内の事業者が受託されているとのことでした。

本施設は、台風の多い島嶼型施設の特徴として、風水害時でも衛生確保が出来るよう、ピット容量を10日分、ピットはダブルピットとして、ごみの積み上げが出来るよう、工夫されています。

さらに、CO₂削減を先取りする形で、太陽光発電、LED照明が採用されています。

本施設は16時間稼働ですが、毎日燃し切り運転を行い、翌日の立ち上げは、炉内の保有熱にて、すぐに安定運転に移行出来るとのことでした。

また、家庭から発生する生ごみは別途回収され、宮古島市資源リサイクルセンターにて、家畜糞尿、剪定枝、木の葉、バガス、製糖工場から出るケーキなどとともに、コンポスト処理されているとのこと、先進的な取り組みが進んでいます。

5. 終わりに

今回見学させていただいた宮古島市クリーンセンターは、美しい島の景色に溶け込むように工夫された流線型の屋根が特徴で、屋内は随所で開口を大きくとり、自然光を取り込んだ、とても明るい、清潔感のある施設です。

見学通路も、この規模の施設としては十分すぎるほどゆったり確保されており、入場から退出まで、五感に一切不快な印象を与えない本施設の見学は、地域の子供たちをはじめ、さぞかし良い印象を持って帰ることが出来るだろうと感じました。

現在、宮古島市は、隣接する旧焼却炉を解体し、リサイクルセンター・プラザを建設中とのこと。

平成30年に全体が完成すれば、本当に素敵な施設が出来上がるのだらうと思います。

安定した操業を続けておられる背景には、

美しい島の環境を守るという強い決意の下、多くの関係者による日々の努力の賜物だろうと感じております。

最後に、業務多忙な中、施設の説明、見学、質疑応答に丁寧に対応していただきました宮古島市生活環境部環境衛生課の川平課長様をはじめ、関係者の皆様方に紙面をお借りして心より厚く御礼申し上げます。



会議室で説明を受ける見学者



施設内を見学



施設の前で